

事務事業名		文集「おおふなと」編集事業		☐ 実施計画掲載事業 ☐ 総合戦略掲載事業	
政策体系	政策名	03 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 3 年度～) ☐ 期間限定複数年度【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	15 学校教育の充実			
	基本事業名	03 豊かで強い心の育成			
根拠法令				予算科目 会計 款 項 目 事業 01 10 01 03 08	
所属	部課名	教育委員会事務局 教育研究所		事務事業区分 A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(1～4以外)	
	課長名	市村 康之			
	係 名	電話	0192-27-3111		
	担当者	高橋 成周	内線 264		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 本事業は、本市の児童生徒の優れた作文や詩を、その時々の子どもの特性や感性などの記録として文集にまとめるものである。 (文集編集委員・・・小中学校教職員(計8名)) (文集編集委員会・・・文集編集委員により、年間計画の策定、文集募集要項の作成、出品された作品の校正作業等を行う。年4回開催) 事業費の内訳は、旅費と印刷製本費である。				全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計 (A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称 単位 ア 編集委員会の回数 回 イ ウ	
前年度実績(前年度に行った主な活動) 文集編集委員会を年4回行い、文集を発刊する。			
今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同様。			
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 名称 単位 カ 児童生徒数 人 キ ク	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 児童生徒の表現力が高まり、作文や読書に向ける意欲が喚起され、文字に親しむ態度を身に付ける。選出された児童生徒は、文集「おおふなと」に選出される作品を仕上げるができる。		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 名称 単位 サ 選出された作品数 点 シ ス	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
命を大切に、他人を思いやる心、豊かな人間性を育てる。			

(2) 総事業費・指標等の推移										
		単位	年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円						
			一般財源	千 円	338	340	372	376	376	376
			事業費計 (A)	千 円	338	340	372	376	376	376
	人件費		正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
			延べ業務時間	時 間	200	200	200	200	200	200
			人件費計 (B)	千 円	800	800	800	800	800	800
			トータルコスト(A)+(B)	千 円	1,138	1,140	1,172	1,176	1,176	1,176
⑤活動指標		ア	回	4	4	4	4	4	4	
		イ								
		ウ								
⑥対象指標		カ	人	2570	2487	2386	2313	2289	2220	
		キ								
		ク								
⑦成果指標		サ	点	106	123	118	118	118	118	
		シ								
		ス								

事務事業ID	0928	事務事業名	文集「おおふなと」編集事業
--------	------	-------	---------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

児童生徒の表現力を高め、作文や読書に向ける意欲を喚起し、文字に親しむ態度を養うことを目指して、本事業は開始された。(事業開始・・・平成3年度)

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

児童生徒の読書離れが進んでいる。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

特になし。

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 文集「おおふなと」への作品募集により、作文や読書に向ける意欲を喚起する。また、編集過程での校正等により、児童生徒の表現力を高める。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 文集「おおふなと」の編集作業や校正、発刊後の読書等により、児童生徒の作文や読書に向ける意欲を喚起し、文字に親しむ態度を育成することができる。このことは、大船渡市民憲章の「学ぶ心を大切に、香り高い文化のまちをそだてる。」の実現に通じるものであり、市教育委員会が中心となって事業を遂行する必要がある。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 対象については、小中学生の範囲をこえると1冊の本にまとめるのが困難になる。市内全小中学校に関わる事業であるので、意図の限定・拡充は必要ない。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 作品の種類を変更することで、選出数を拡大することは可能であるが、実質的な作品の量を変えることは困難である。小学校12校・中学校8校(1学級・・・作文1点、俳句・詩1点)を考慮すると、選出総数130点は妥当な数であるといえる。よって成果の向上余地はない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 児童生徒の読書離れが進み、文字に対する興味関心がさらに薄れてしまう。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 作品数を減らしたり、配布部数を減らすことは、児童生徒の感性の記録・発信としては不十分である。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 130点の作品の校正等をするには、編集委員7名は必要である。また、一人あたり約20点の作品を正確に校正するためには、今年度実施した業務時間(編集委員会開催回数)は、最低限必要である。よって業務時間の削減余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ この事務事業の受益者は特定できないし、特定できたとした場合の児童生徒の作品集の発刊は、行政のコストとして負担するのが妥当である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果																						
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止		左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	本事業に向けた学校の取組状況や、文集「おおふなと」の活用状況等を把握し、児童生徒にとってより有用な事業とするために取組方法等について改善を図る。ただし、状況によっては、事業の縮小・廃止についても検討する。